

コガモ（カモ科） 全長38センチ

コガモは、北の繁殖地から越冬のため日本に飛来する渡り鳥です。

9月13日、今シーズン最初のコガモが神宮寺の大浦沼に6羽飛来した。大浦沼には多くの冬鳥が飛来するが、コガモは毎年最初に観察されて来ました。

翌日には20数羽を数え、今後ますます増えていくと思われます。過去の観察例から10月下旬ころには数百羽まで増え、更にオナガガモとマガモも加わり沼の中は大賑わいになります。



9月13日、冬鳥の先発隊として、大浦沼に飛来する。

コガモが飛来した今の季節は、オスとメスはどちらも羽の模様が似ていて区別が付きません。オスは1月頃から冬羽に変わり、頭部が茶褐色になり見分けが付きやすくなります。

見た目も地味なコガモですが、羽ばたいたときに見られる次列風切り（翼鏡）が鮮やかな緑色で、目にするのは一瞬だけの楽しみです。



右は留鳥のカイツブリ。



群れて沼の上を飛び交う。



4年前の3月。オスは冬羽になり、頭部は茶褐色、目の周囲は緑色に。



冬羽の次列風切は、鮮やかな緑色。